

ぎんやまち しゃちだいこ
銀屋町鯨太鼓

「^{しゃちだいこ}鯨太鼓」は、昭和 57 年の長崎大水害のような災害が再び訪れないことと、大水害から復興に立ち向かう人々に ^{きっしょう}吉祥 が訪れるようにとの願いを込めて、^{ぎんやまち}銀屋町が昭和 60 年の長崎くんちで初めて奉納致しました。

古い時代の中国に伝わる「^{ほうらいこ}蓬萊鯨伝説」を、^{すえだいこ}据太鼓と 46 人が担ぐ^{かつ}山車^{だし}により表現したもので、『古代中国において、東の方向 ^{たいかいちゆう}大海中 に棲む^す神仙^{しんせん}の ^{しゃち}鯨 が ^{うなばら}海原を裂き 天空をめざして昇り、やがて ^{そうてん}蒼天に至って「^{きんごうりゆう}黄金の龍」となり人々に ^{きっしょう}吉祥 を招いた。』という言い伝えを表現しています。

この鯨太鼓でのくんち奉納がきっかけとなって、旧町名「銀屋町」復活に向けての住民運動が立ち上がりました。その願いは平成 19 年 1 月 9 日に叶い、全国で二番目となる旧町名復活が果たせました。これも多くの皆様のご理解と応援の賜物であると感謝致しております。

鯨太鼓の次回の長崎くんち奉納は、平成 33 年です。皆様には今後とも応援、よろしくお願ひ申し上げます。